

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文） 目次

1. 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
1) 新学部を設置する大学等の現状把握・分析	2
2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析	3
3) 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	3
4) 学生確保の見通し	7
5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	13
2. 人材需要の動向等社会の要請	16
1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	16
2) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材 需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	17

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1) 新設学部を設置する大学等の現状把握・分析

学校法人順天堂は、天保9年、学祖・佐藤泰然が江戸・薬研堀に開設した西洋医学塾に端を発し、その後、時代の変遷を先人達の熱意と使命感をもって乗り越え、日本の医学・医療分野の発展に指導的な立場で貢献してきた。現在本学は、医学・医療系学部として、医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部、医療科学部の5学部に加えてスポーツ健康科学部、国際教養学部と本年4月開設予定の健康データサイエンス学部の8学部を擁し、大学院は医学研究科（博士課程、修士課程）、スポーツ健康科学研究科（博士前期課程、博士後期課程）、医療看護学研究科（博士前期課程、博士後期課程）と本年4月開設予定の保健医療学研究科（修士課程）の4研究科で、高度な専門教育と研究を行っている。また、大学院附属研究センター（研究所）として、アトピー疾患研究センター、老人性疾患・病態治療研究センター、環境医学研究所、スポーツ健康医科学研究所及びスポーツロジックセンターをはじめ、医学・医療・スポーツ分野の多岐にわたる研究機関を設置している。

医学部附属病院群は、本院としての機能を持つ順天堂医院（東京都）のほか、静岡病院（静岡県）、浦安病院（千葉県）、順天堂越谷病院（埼玉県）、順天堂東京江東高齢者医療センター（東京都）及び練馬病院（東京都）を開設し、6病院総病床数 3,559 床を擁している。6 附属病院は、高度な先進医療から、高齢者医療や精神医療等をカバーし、各附属病院の立地する地域の特性に応じた地域医療の充実を図り、国民の医療ニーズに幅広く対応している。

本学は、創立以来、永年に亘り医療専門職者として医師、看護職者（看護師、保健師、助産師）を養成してきた。平成 31 年 4 月には保健医療学部、令和 4 年 4 月には医療科学部を開設し、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士の養成に取り組んでいる。医師は、医学専門学校から通算して 5,900 名以上、看護職者についても旧制看護学校（順天堂医院看護婦講習所）から通算して 8,600 名以上の実績を持っている。保健医療学部では本年 3 月第 1 回生が卒業する運びである。本学は、医療専門職者の養成に必要とされる教育研究臨床環境が整備されたなかで、医師及び看護師をはじめとするコメディカル職者を養成している。

このように医学・医療分野の人材の養成を担う本学としては、薬学に係わる専門知識と技能及び良好なコミュニケーション能力を持ち、臨床現場や地域医療で多職種と連携して患者の立場に立って適確に薬物治療を推進できる薬剤師を養

成するとともに、医療技術や薬品開発における科学技術の進歩と発展に貢献、寄与することが健康総合大学を目指す本学の社会的使命と捉え、本学が蓄積してきた人材養成の実績と教育を基盤として、6年制学部教育による薬剤師の養成に向けて薬学部（以下「本学部」という。）を設置することを決定した。

2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

日本は超高齢社会を迎え、疾病構造の変化や医学・医療技術の高度化・複雑化が進展するなかで、国民の医療に対するニーズや要望も多様化し、質が高く安心で安全な医療サービスをより重視する方向に転換している。

近年の医療を巡る環境変化のなかで薬剤師は、臨床現場や地域医療において医師や看護師等の多職種と連携、補完しあいながら、患者の病態と薬歴を把握した上での確かな薬品情報提供、効果的な薬物治療のための投与計画の策定、服薬指導、リスクマネジメントなど、専門知識に基づく医薬品の適正使用を推進することが求められている。医薬品という「モノ」の管理が中心であった薬剤師の業務内容は、チーム医療の一員として多職種との連携に基づいて薬物治療に主体的に係わる役割に変化している。さらに薬剤師は専門知識や技能に裏打ちされた実践能力を持つことはもとより、患者や家族等の視点から判断できる高い倫理観と豊かな人間性、良好なコミュニケーション能力を備えていることが必要であり、大学学部においてこのようなニーズに対応できる薬剤師の養成が課題となっている。

後述「2）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠（1）人材需要の動向」に詳細を記載するとおり、厚生労働省調査において、臨床実践能力の高い病院薬剤師の不足及び偏在が指摘されており、本学医学部附属病院においても病院薬剤師の確保は容易ではない。また厚生労働省による薬剤師の需給推定では、将来的に薬剤師が過剰になると予想されるが、現状では、千葉県、埼玉県及び茨城県が策定した保健医療計画によると、薬局・病院に勤務する人口10万人当たりの薬剤師数はいずれも全国平均を下回っており、薬剤師の確保の必要性が指摘されている。さらに、薬剤師の地域偏在も問題となっており、その解消も求められている。本学薬学部を設置する千葉県においても薬剤師の不足が指摘されている。

3) 新設学部の趣旨目的、教育内容、定員設定等

(1) 趣旨目的

前述のような社会的状況及び医療人材養成需要を受け、薬学に係わる専門知識と技能及び良好なコミュニケーション能力を持ち、臨床現場や地域医療で多職種

と連携して患者の立場に立つて的確に薬物治療を提供できる薬剤師を養成するとともに、医療技術や医薬品開発における科学技術の進歩と発展に貢献、寄与することが健康総合大学を目指す本学の社会的使命と捉え、本学が蓄積してきた人材養成の実績と教育研究臨床環境を基盤として、6年制学部教育により薬剤師を養成する薬学部薬学科を設置する。

本学部は、浦安・日の出キャンパス（千葉県浦安市）に開設する。浦安・日の出キャンパス近くには、本学医学部附属浦安病院（病床数785床）及び医療看護学部（看護師・保健師・助産師養成学校）が設置されている。浦安病院は、実習病院の拠点の一つとしての機能を有し、緊密な連携体制を構築する。医療看護学部とは連携して多職種連携教育を展開していく。本学医学部は、多彩な教育研究業績及び豊富な臨床経験を有する教員を擁するとともに、多彩な機能と特性を有する6附属病院（総病床数3,559床）を設置している。附属6病院においては、学是「仁」の精神を基盤として、医師や看護師等の多職種が協働して最先端の高度医療を提供している。本学部の病院実務実習は医学部附属病院と連携して、本学部教員と附属病院の実習指導者とが協議したうえで実習を進めていく。

（2）教育内容

本学部は、文部科学省中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（2005年1月28日）で示されている大学の7機能のうち、「③幅広い職業人養成」を基盤に置き、「⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」を併せ持つ。教育内容は次のとおりである。

- ア. 本学が医学部及び看護系学部をはじめとする医療系学部で培ってきた医学・医療・保健・健康の各領域の専門知識・技術の教育及びチーム医療教育の実績を基盤として、医学部・看護系学部及び医学部附属病院と連携して実践的な教育体制を整備し、臨床実践能力の高い薬剤師を養成する。
- イ. 医学部・医療看護学部との合同授業による多職種連携教育を通じて、薬学教育の基本である『医薬品に対する専門知識と技能』に加え、『人の命に係わる医薬品を扱うための高い生命倫理観』を身に付け、多職種と連携して地域社会の保健、医療、福祉の向上に貢献できる薬剤師を養成する。
- ウ. 医学部から本学部へ異動する医師の資格を有する教員及び医学部附属病院に勤務する兼任教員が担当する臨床医学系科目を配置し、「薬物を理解する」ことに加え「疾患を理解する」ことや「患者を理解する」ことに重点を置いて医療人としての総合的な知識・技能・態度を具えた薬剤師を養成する。
- エ. 実務家教員は、学部教育を担当するとともに、附属病院薬剤部（薬剤科）を兼務し、実務実習や臨床業務に参画し、学部と附属病院との緊密な連携協力体制

のもとで統一した実習基準、実習方法や評価に基づいて実務教育を行う。

- オ. 研究力マインドを兼ね具えたファーマシスト・サイエンティストを育成するため、基礎科目から臨床科目までの幅広い教育を行って、3年次後期から全員を研究室に配属し、「医療薬学基礎研究」及び「医療薬学実践研究」に取り組む。卒業研究の質と量の向上を図り、研究力マインドの養成を目指す。教員・学生が各種の研究実験機器を自由に利用できる共同利用施設として薬学研究基盤センターを設置するとともに、大学院医学研究科の研究基盤センターと連携した医学研究科との共同研究を含めて研究活動を推進する。
- カ. 国際感覚と外国語運用能力の向上を図ることは医療人としてばかりでなく、研究者養成にも不可欠である。1年次の基礎的な英語教育に加えて、2年次・3年次の選択科目として「医療・薬学英语Ⅰ・Ⅱ」を配置する。「医療薬学基礎研究」「医療薬学実践研究」において英語科学論文の輪読やディスカッションを行うとともに、海外研修の機会を設ける。

(3) 定員設定の理由

本学部の入学定員は180名に設定する。他大学の入学定員の状況、本学既設学部の入学定員の状況、学生確保の状況、教育実績、施設設備等を考慮して入学定員を設定した。

2022（令和4）年度において私立大学の6年制薬学部（薬学科）は全国に60校設置されており、入学定員の総数は10,576名である。各大学の入学定員は、医療創生大学の60名から東京薬科大学の420名まで幅があるが、60校の平均は1校当たり176名であり、本学部の入学定員180名は平均的な水準である【資料1】。

本学既設の8学部の入学定員は、医学部140名（臨時定員含む、恒久定員は105名）、スポーツ健康科学部600名、医療看護学部220名（令和4年4月より200名から入学定員増）、保健看護学部130名（令和4年4月より120名から入学定員増）、国際教養学部240名、保健医療学部240名（理学療法学科120名、診療放射線学科120名）、医療科学部180名（臨床検査学科110名、臨床工学科70名）（令和4年4月開設）、健康データサイエンス学部100名（令和5年4月開設）である【資料2】。医学部140名は全国国公立大学医学部のなかで入学定員が最大クラスであり、医療看護学部220名は最大規模の入学定員数である。それぞれ適切に運営され、入学定員を大幅に上回る志願者を集めており、本学部入学定員180名は本学既設学部の学生確保の状況を踏まえて設定している。また既設学部の教育成果の指標となる国家試験合格率及び就職実績については、各学部で全国トップクラスの国家試験合格率（医師国家試験合格率96.4%、看護師国家試験合格率医療看護学部100%、保健看護学部99.2%（令和3年度実績））【資

料 3】と 100%近い就職実績【資料 4】を維持しており、本学部の設定する薬学部入学定員 180 名は本学の教育実績を踏まえた入学定員である。

施設設備の面では、本学部と同じ浦安・日の出キャンパスの医療科学部と入学定員が 180 名で同じであり、教室を相互利用することで、施設設備を効率的に運用することができる。また主に薬学部が使用する 3 号館南棟・北棟を新築し、授業科目の配置状況や授業形態、履修者数等を考慮の上、大・中・小講義室、SGD（スマール・グループ・ディスカッション）室及び実習室、研究実験室、臨床薬学施設、カンファレンス室、動物実験施設、教員研究室等、必要な数及び規模の教室を配置している。

（4）新設学部等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

本学部の学生納付金は、学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、施設・設備の充実を考慮するとともに、他大学の薬学部における学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度に収支の均衡が計れることを前提に、人件費及び教育研究や管理運営に係わる経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点にもとづき入学金 300 千円、年間の授業料等 2,000 千円とし、初年度納入金は 2,300 千円、6 年間合計は 12,300 千円に設定した。

他大学の 6 年制薬学部の学生納付金水準との比較では、本学部を設置する千葉県を含む南関東（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）に設置されている 19 校の平均は、初年度 2,299 千円、6 年間合計 12,611 千円であり、本学部の初年度 2,300 千円、6 年間合計 12,300 千円は平均的な水準である【資料 5】。

本学部を設置する浦安・日の出キャンパス（以下「本キャンパス」という。）は、千葉県浦安市に立地し、JR 京葉線新浦安駅より徒歩 25 分、バスで約 5～10 分である。本キャンパスの両側に新浦安駅からの 2 路線によるバス停があり、利便性は高い。本キャンパス敷地は、平成 27 年 4 月に千葉県から取得し、総面積 39,500 m²のほぼ正方形の躯体である。本キャンパス周辺は、既に戸建住宅、中高層マンション、小学校等が建てられ、周辺の道路は車道と歩道が区分されている等、計画的に整備され、緑地が多く静かで教育・研究活動にふさわしい環境である。本キャンパスに既設の 1 号館（令和 3 年 12 月竣工済）、2 号館（令和 5 年 8 月竣工予定）校舎に加えて新たに 3 号館校舎（南棟・北棟）を整備する（令和 7 年 1 月竣工予定、地上 5 階建・南棟延床面積 12,290 m²、地上 3 階建・北棟延床面積 3,869 m²）。本学部は 3 号館校舎を中心として 1 号館と 2 号館の一部を利用して授業を行う。校舎の他に体育館（延床面積 3,817 m²、バスケットボール 2 面、バレーボール 2 面、バドミントン 6 面を兼ねる）を設置している。体育館にはト

レーニングルーム、ランニングコース等を併設している。運動場として、グラウンド（フットサルコート2面）、テニスコート（3面）、合計5,659㎡を設置している。これらの運動施設は、教育課程におけるスポーツ授業だけでなく、学生のクラブ・サークル活動等に利用可能である。

専任教員体制は順天堂大学教員選考基準に基づき、人格、学歴・職歴及び学術上・教育上の業績等を考慮して行われている。特に本学は医師、看護師、理学療法士、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士等の医療職者の養成を行っていることから、教育経験・教育研究業績に加えて、実務経験が豊富な人材を積極的に採用している。すべての教員が授業科目に関連する分野において十分な研究業績を有し、教員は全て博士の学位（語学担当教員は修士）を保有している。教育上主要と認められる授業科目に専任教員を配置しており、その専任教員の配置に当たっては、それぞれの領域における教育研究業績、実務経験等と担当授業科目との適合性を十分考慮している。このような充実した教育内容、教育環境及び教員体制を考慮して学生納付金を設定した。

4) 学生確保の見通し

(1) 学生確保の見通しの調査結果

本学部に興味があり受験・入学したいと考える生徒がどの程度存在するかを確認するために、各種資料を参照するとともに、独自の調査を行った。

ア. アンケート調査の概要

調査期間 : 令和4年9月～11月

調査対象者 : 本学部を設置する千葉県及びその周辺に位置する1都8県（千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、長野県）に所在する本学に入学実績のある高等学校の在学者で、令和6年度大学進学対象となる高校2年生。

調査方法 : アンケートは①アンケート用紙と②Webの回答専用サイトで回答することとし、高等学校にどちらかの方法を選択頂いて実施した。

①アンケート用紙での実施を選択した高校には、アンケート用紙とリーフレットを送付し、高校2年生の生徒にアンケートを回答してもらい、その場で教員に回収頂き、宅急便にて回答済み用紙を受領した。

②Webアンケートでの実施を選択した高校には、高校別にアンケート回答用URLを送付し、高校2年生の生徒にURLを周知

して頂き、回答を募った。

調査票 : 調査票及びリーフレットには、設置予定学部学科の名称、設置予定時期、設置予定場所（アクセス含む）、入学定員、学生納付金（入学金、授業料等）、学部設置の理念、養成する人材像、競合する大学の名称・所在地を明示した。

調査委託会社 : 株式会社高等教育総合研究所

イ. アンケート調査の結果【資料 6】

アンケート調査の対象となる令和 6 年度大学進学対象者となる高校 2 年生に対して本学部の設置と進学希望に関するアンケート調査を行い、153 校、15,767 名から有効回答を得た。

本調査は調査対象である受験生の多くが実際の出願の際に複数の大学・学部を併願して受験することを前提として、問 6「本学部への興味」、問 7「受験意向」を質問した後に問 8「入学意向」まで回答して頂く質問構成とし、問 8 の入学意向は、「合格した場合、入学したい」に加えて「合格した場合、併願大学の結果によっては入学したい」の選択肢を入れ、より第 1 志望に近い受験生の回答を抽出できるようにした。本学部への入学意向者数を予測する指標としては、「受験意向あり」かつ「(第 1 志望に近い) 入学意向あり」の人数を集計するとともに、問 3「高校卒業後の進路」及び問 5「興味のある学問分野」の回答者に対する「受験意向あり」かつ「(第 1 志望に近い) 入学意向あり」の人数をクロス集計し、属性による分析を行い、本学部への入学意向を調査した。

まず、回答者の性別は、男子が 48.0%、女子が 51.4%で、居住地は東京都（23 区内）が最も多く 22.8%、次いで千葉県が 22.2%、埼玉県が 18.8%と続き、本学部を開設する浦安・日の出キャンパスがある千葉県浦安市の大学への進学可能性が高い首都圏（1 都 3 県）の居住者が 84.0%を占めた。また卒業後の希望進路については、私立大学が 68.6%と最多であった。このようなことから、本調査における調査対象及び回答者の属性は妥当性を有するものと思料している。

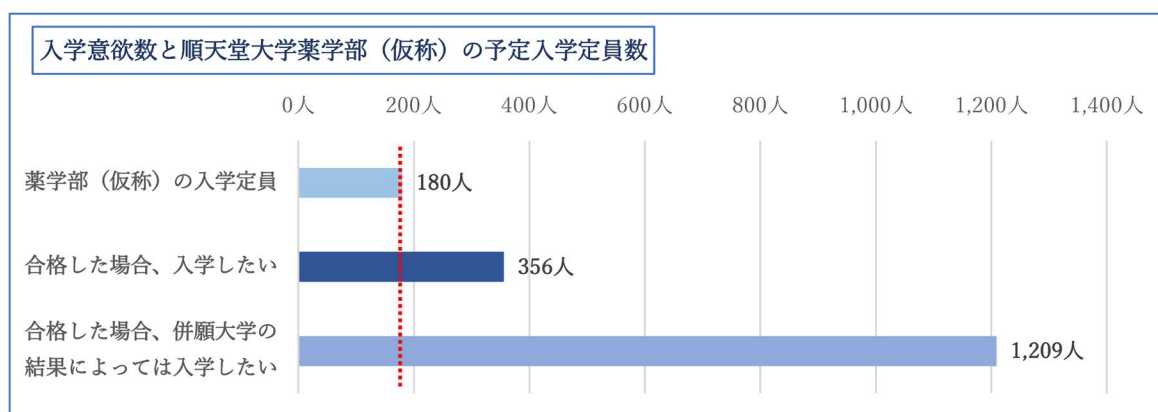
興味・関心を持っている学問分野については、回答者の多い順に、「理学・工学系」が 5,781 人（36.7%）、「情報・データサイエンス系」が 2,873 人（18.2%）、「社会科学系」が 2,814 人（17.8%）、「薬学系」が 2,244 人（14.2%）、「人文科学系」が 2,189（13.9%）であった。また本学部に対する生徒の興味度については、「興味がある」が 3,524 人（22.4%）であり、薬学分野は生徒の興味・関心が高いことが分かった。

本学部への受験意向については、「受験したい」と回答した割合は回答者の 10.2%、1,615 人であった。

本学部への入学希望者は、一般的な大学受験の際と同様に他の大学を併願して

いることを想定しているが、その中で本学部への入学意向については、「受験して合格したら、入学したいと思うか」という問いに対し、「入学したい」と回答した人数は356人(22.0%)、「併願大学の結果によっては入学したい」は1,209人(74.9%)であった。

以上の結果、本学部について、高校生の1,615人が受験意向を示し、そのうち1,565人が入学意向を示し、「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した1,209人を除いた第1志望に近い入学意向は356人であり、これは本学部が予定する入学定員180名を大きく上回っている。



なお、希望進路、興味がある学問分野、入学意向をクロス集計した結果、希望進路を「私立大学」と回答し、興味のある学問分野を「薬学系」と回答した者のうち、「入学したい」と回答した人数は189名であり、希望進路と興味ある学問分野を考慮した場合でも、十分な入学意向者が見込めると考えている。

なお本調査は本学に入学実績のある高等学校のうち1都8県(千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、山梨県、茨城県、栃木県、群馬県、長野県)に所在する高等学校の在学者に限定して実施したものであり、本調査対象外の高等学校からの受験も想定されることから、入学定員を大きく上回る志願者を確保できる見通しである。

(2) 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団『令和4(2022)年度私立大学・短期大学等入学志願動向』【資料7】によると、全国の私立大学の薬学部は60校であり、令和4年度の入学定員は11,391名、志願者数は76,635名、入学者数は10,798名であり、志願倍率は6.73倍、入学定員充足率は0.94である。私立大学の6年制薬学部60校のうち、本学部の受験者の地域として想定される南関東地区には、埼玉県2校、千葉県5校、東京都10校、神奈川県2校、合計19校設置されている【資料5】。旺文社「大学受験パスナビ」に掲載されているデータによると、当該19校の令和4年度の入学定員の合計は4,249名、志願者数の合計は30,601名、入

学志願倍率（全入試方式の志願者数の合計と入学定員の割合）は 7.2 倍であり、大学別では、最も低い城西国際大学薬学部医療薬学科の 1.4 倍から最も高い東京理科大学薬学部薬学科の 20.5 倍と大きな差がある。また当該 19 校の令和 4 年度の入学定員充足率は、各大学の情報公開資料によると入学定員 4,249 名、入学者数 4,240 名、入学定員充足率 0.99 であり、19 校の合計では定員を充足している。大学別では 15 校が定員を充足しており、定員未充足（0.95 未満）の大学は 4 校あり、各大学 0.44～0.69 と大幅未充足となっている。これらの 4 校は志願倍率も 1.4 倍から 3.4 倍と低いが、薬学部以外にも定員未充足の学部・学科がある等から、薬学部だけでなく大学全体として定員管理の課題を有していると考えられる。

本学と同様に医学部及び附属病院を有する類似大学(医科系大学)は6校あり、いずれも志願倍率は 5.3 倍から 9.5 倍と高倍率で、定員を充足していることから、本学についても定員を充足する見込みがある。

(3) 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

リクルート進学総研マーケットリポート「18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」【資料 8】によると、学校基本調査より予測した 18 歳人口の 2021 年度から 2033 年度の 12 年間の動向は、全国では 114.1 万人から 101.4 万人に約 11%減少する見込みであるが、本学部への志願者が多いと思われる南関東地区（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）では 30.2 万人から 29.0 万人に約 3.8%の減少にとどまると予想されている。一方、大学進学率は、全国では 2012 年 47.7%から 2021 年 52.9%に 5.2 ポイント（10.9%）増加しているのに対して、南関東地区では 2011 年 56.3%から 2021 年 61.1%に 4.8 ポイント（8.5%）増加しており、2021 年度の大学進学率 61.1%は全国で第 1 位となっている。また自県内の大学入学者数のうち自県内の高校出身の大学入学者の割合（地元残留率）は、全国では 2021 年 44.7%であるのに対して、南関東地区では 48.2%と、全国で第 3 位となっている。H30.2.21 中央教育審議会大学分科会将来構想部会（第 13 回）資料「大学進学者数等の将来推計」【資料 9】によると、全国の大学進学率は 2040 年に 57.4%まで上昇することが予想されており、18 歳人口は低下していくものの、本学部の立地する南関東地区では大学進学者数が大きく減少することはないものと予想される。

なお、日本私立学校振興・共済事業団『令和 4（2022）年度私立大学・短期大学等入学志願動向』【資料 10】によると、本学部が立地する千葉県内の学部の令和 4 年度の志願倍率は 10.84 倍、入学定員充足率は 98.9%、令和 3 年度の志願倍率は 9.61 倍、入学定員充足率は 101.09%となっており、志願倍率は約 10 倍、入

学定員充足率は100%程度となっており、令和4年度の入学志願倍率10.84倍は地域別で第1位の倍率である。本学部を設置する浦安市（JR新浦安駅）はJR京葉線を利用して埼玉県や東京都からも通学圏で、千葉県内において通学がしやすい地域であり、本学部は十分に定員を充足できることが見込まれる。

（4）競合校の状況

本学と受験者層が重なると予想される大学として、本学部と同じ千葉県内に立地し、本学と同様に医学部（附属病院）を設置する東邦大学薬学部を競合校に設定する。東邦大学薬学部は、学部の特色・目的として「医学部と付属病院を擁する利点を生かした臨床教育を展開」し、「臨床に強い薬剤師の育成を目指す」としており、本学部と特色・目的が類似している。学生納付金は初年度2,230千円、6年間合計12,480千円であり、本学部の初年度2,300千円、6年間合計12,300千円と同水準であり、競合校として妥当であると思料する【資料5】。

過去3年間の入学試験結果は、令和4年度は志願者数2,005名、受験者数1,930名、合格者数514名、入学者数241名、入学定員充足率1.09、入学定員志願倍率9.1倍、令和3年度は志願者数1,891名、受験者数1,822名、合格者数581名、入学者数241名、入学定員充足率1.09、入学定員志願倍率8.6倍、令和2年度は志願者数2,096名、受験者数1,997名、合格者数558名、入学者数241名、入学定員充足率1.09、入学定員志願倍率9.5倍であり【資料11】、志願倍率は継続して高い水準を維持し、入学定員も充足しており、本学も同水準の志願倍率を見込めると考えられる。

本学部の優位性について、本学部の入学定員は180名に設定しており、東邦大学の220名に比べて約18%定員が少なく、学生確保及び少人数教育の面で優位性がある。また本学部を設置する浦安・日の出キャンパスの最寄り駅はJR新浦安駅であり、千葉県に次いで本学部への志願者数が多いと思われる東京都内からは、東京駅から快速3駅17分、また埼玉県内からは武蔵野線で通学できる等、交通アクセスが便利であり、臨床教育の中心を担う医学部附属順天堂医院及び浦安病院から近く、医学部及び附属病院との連携が行いやすい立地である。また浦安・日の出キャンパスは令和4年4月に開設したばかりの新しいキャンパスであり、最新の施設設備を利用できることは受験生にとって魅力があると考えられる。

両大学の既設学部について類似学部の入学志願状況を比較すると、千葉県内に設置されている東邦大学健康科学部看護学科と本学医療看護学部看護学科の比較では、東邦大学健康科学部看護学科の入学志願倍率は入学定員60名に対して令和4年度6.0倍、令和3年度8.3倍、令和2年度9.0倍【資料11】、本学医療看護学部看護学科は入学定員220名に対して令和4年度9.0倍、入学定員200名

に対して令和3年度7.2倍、令和2年度8.9倍であり【資料12】、本学医療看護学部看護学科の方が入学定員140～160名多いにも関わらず、同程度の入学志願倍率となっており、薬学部においても競合校と同程度以上の入学志願者を見込むことができると考えている。

以上、立地や競合校の学生確保の状況を考慮して、本学部は十分に学生補確保できる見込みである。

(5) 既設学部等の学生確保の状況

本学の既設学部における志願者数、志願倍率、入学定員充足率の実績は次の通りであり、志願者数は高い水準で安定して推移するとともに、志願者数、受験者数、合格者数の実人数についても、入学定員を大幅に上回る人数を確保している。また入学定員充足率については、各学部0.96～1.03の範囲であり、全学部で入学定員を順守して運営している。入試方式別の志願状況では、令和4年度入試実績において、全学の選抜方式76方式のうち73方式で志願者数が募集人員を上回っている。入学志願倍率は学部毎に3.9倍から27.1倍まで幅があるが、各学部安定して高い水準を維持しており、既設学部においては今後も定員充足する見通しである【資料12】【資料13】。

薬学部と同じ医療系学部の志願倍率の状況については、保健医療学部理学療学科及び診療放射線学科は、令和31年度開設時の志願倍率はそれぞれ4.7倍、4.1倍であったが、完成年度を迎えた令和4年度にはそれぞれ10.0倍、9.8倍と学年進行に伴い志願倍率が上昇している。また同じく医療系で千葉県浦安市の浦安キャンパスに設置する医療看護学部においても5年間の志願倍率は7.2倍から10.4倍の範囲で高い水準となっており、本学医療系学部の人気は高く、薬学部においても定員を充足できる見通しである。

学部・学科		R4年度	R3年度	R2年度	H31年度	H30年度
医学部 医学科	志願者数	3,741名	3,831名	4,082名	4,157名	4,280名
	志願倍率	27.1倍	28.1倍	30.2倍	29.6倍	30.5倍
	入学定員充足率	1.00	1.00	1.00	1.01	1.00
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	志願者数	4,490名	3,490名	-	-	-
	志願倍率	7.4倍	5.8倍	-	-	-
	入学定員充足率	1.03	1.01	-	-	-
医療看護学部 看護学科	志願者数	1,974名	1,451名	1,793名	1,912名	2,095名
	志願倍率	8.9倍	7.2倍	8.9倍	9.5倍	10.4倍
	入学定員充足率	0.96	1.00	1.01	1.00	1.00
保健看護学部 看護学科	志願者数	715名	631名	771名	694名	815名
	志願倍率	5.5倍	5.2倍	6.4倍	5.7倍	6.7倍
	入学定員充足率	1.03	1.05	1.03	1.02	1.01

国際教養学部 国際教養学科	志願者数	1,035名	1,324名	1,842名	1,466名	793名
	志願倍率	4.3倍	5.5倍	7.6倍	6.1倍	6.6倍
	入学定員充足率	0.98	1.01	1.00	1.04	1.01
保健医療学部 理学療法学科	志願者数	1,206名	921名	1,001名	568名	-
	志願倍率	10.0倍	7.6倍	8.3倍	4.7倍	-
	入学定員充足率	1.01	1.00	1.00	1.01	-
保健医療学部 診療放射線学科	志願者数	1,176名	958名	924名	502名	-
	志願倍率	9.8倍	7.9倍	7.7倍	4.1倍	-
	入学定員充足率	1.01	1.00	1.00	1.01	-
医療科学部 臨床検査学科	志願者数	673名	-	-	-	-
	志願倍率	6.1倍	-	-	-	-
	入学定員充足率	1.01	-	-	-	-
医療科学部 臨床工学科	志願者数	274名	-	-	-	-
	志願倍率	3.9倍	-	-	-	-
	入学定員充足率	1.00	-	-	-	-

5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けて既設学部の実績を踏まえて次のような取組を実施又は計画しており、PR活動を行うルールを遵守したうえで、本学アドミッションセンター及び本学部事務室を中心として組織的に広報活動を展開する。これらの取組により、本学部の存在を受験生を含めた一般社会に周知し、受験生とその保護者の志願校選択の参考として、本学部への理解を深める効果がある。またこれらの取組はいずれも本学既設学部で実施しており、その結果として各学部で入学定員を大幅に上回る志願者を確保し、入学定員を遵守した入学者の受入れを行っている。また、本学が薬学部設置構想を発表して以後、マスメディアからの取材依頼や高校生とその保護者からの直接の電話問い合わせも多く受けており、本学部が高い注目を集めていることが窺える。引き続き取材依頼や個別の問い合わせに積極的に対応して広報活動を推進する。

(1) 学部案内（パンフレット）の制作・配布

①学部紹介パンフレットの制作

本学部の教育理念、薬剤師の業務内容、想定される進路・将来性、カリキュラム内容や施設設備の状況等を掲載した学部紹介パンフレットを5月下旬までに制作する（約2万部）。

②学部紹介パンフレットの送付

6月上旬から本学への進学が期待される薬学部志望と思われる生徒宛（約1万名）に本学部の周知を図るため、学部紹介パンフレットをダイレクトメールで送付する予定である。ホームページに本学部のサイトを掲載し、パン

フレットの請求があった生徒・保護者にも送付を行う。本学部と同じ医療系学部の医療看護学部（浦安キャンパス）では、ホームページ、進学情報サイト経由での資料請求、オープンキャンパス、高校訪問、進学相談会、キャンパス見学等の広報活動で6月初旬から3月上旬にかけて約28,500部配布している。

（2）Web活用による広報活動

①大学ホームページへの掲載

現在は学校法人のホームページに設置構想中の予定学部として本学部のページを設けている。今後さらに詳細に本学部の概要や特色が分かるように、掲載情報の充実を図っていく。

②本学部専用ホームページの開設

本学部の専用ホームページを設置認可申請後速やかに開設し、学修やカリキュラム内容、施設設備の状況、学生からの問い合わせ窓口、今後開催を予定しているオープンキャンパスの開催案内や業者主催の大学・学部説明会情報等、受験志願者に有意義で参考となる内容を情報公開する。

③SNS（公式LINE、Twitter、Facebook等）での情報発信

設置認可申請後より定期的に情報発信を行い、受験者層への接触回数増加を図る。

（3）オープンキャンパスの開催

7～8月に本学部に志願意向のある高校生を募り、オープンキャンパスを開催する（対面及びリモートで開催）。本学部の特色、教育理念、カリキュラム内容等を説明するほか、教員による模擬授業等を実施する。医療看護学部（浦安キャンパス）では、オープンキャンパス3回、進学相談会1回を開催し、全て対面・Webを併用して開催している。参加者は、対面966名、Web875名、合計1,841名であり、医療看護学部への志願者数とほぼ同数の参加者となっており、志願動向をはかる指標の一つとなっている。本学部では参加者数2,000名を目標とする。

（4）高校訪問による広報

訪問実績のある高校及び高大連携協定締結校を中心に教員と事務担当者を派遣して本学部の教育理念、人材養成の目的、求める学生像等、本学部の概要及び特色を説明する。

①実施体制

開設前年度には、薬学部開設準備室教員3名、職員2～3名の合計5～6名が分担して実施する。

学部開設以降は専任教員及び事務担当者が分担して7～9月頃に関東甲信越地区を中心に巡回して高校訪問を行う。

②訪問先

ア) 開設前年度は、千葉県を中心として近隣都県の本学と関係のある次の高校を訪問する計画である。訪問件数は50校を目標とする。

- ・医療看護学部（浦安キャンパス）及び医療科学部（浦安・日の出キャンパス）に進学実績のある高校
- ・本学が高大連携協定を締結している高校
- ・本学スポーツ健康科学部卒業生が保健体育教員として勤務している高校

イ) 学部開設以降も継続して年間100校を目標に高校訪問を継続する。

(5) 大学・学部説明会への参加

既設学部が参加している業者主催の大学・学部説明会に共同参加し、本学部の紹介を行う。医療看護学部においては、47会場の説明会に参加している。特に医療系学部は職種別の説明会が開催されており、本学部についても薬学部・薬科大学の合同説明会に積極的に参加する。

(6) 高校生向け受験情報誌への情報掲載

出版社・新聞社・予備校等が発行する受験情報誌等へ広告掲載を行う。医療看護学部においては、合計10社、20媒体へ掲載するとともに、WEBDMを活用した入試情報発信を行っている。

(7) 同窓会ネットワークによる広報活動

本学の同窓会である医学部同窓会、スポーツ健康科学部同窓会（啓友会）、看護学部同窓会の会員の多くは、医師、中学校・高等学校等の保健体育教員、看護師、保健師等として全国規模で活動している。同窓会は年刊又は季刊で同窓会誌を発刊している。同窓会誌に本学部の案内記事を掲載し、全国規模で広報を行う。

同窓会は、定期的に東京及び各地区で総会や支部会等を開催し、理事長、学長、学部長等が出席している。同窓会の総会や支部会等にて本学部の開設及び学部概要・特色等を紹介し、志願者募集への協力を働きかけていく。

(8) 複数の多様な入学試験による学生確保

本学部では学校推薦型選抜（公募制）、帰国生入試、総合型選抜、一般選抜、大学共通テスト利用選抜による複数の多様な入学者選抜方法で入学試験を行い、本学部のアドミッション・ポリシーに基づいた学生の確保を行う。

(9) その他の広報活動

既設学部においては、上記以外の特色がある取組として、学生広報委員活動「母校へ帰ろう」を実施しており、在学生在が母校の高校へ訪問し、教員や生徒へ入試対策や学校生活について説明している。本学部においても開設後に学生による広報活動への参加を呼びかける。

2. 人材需要の動向等社会の要請

1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

(1) 養成する人材像

本学部では、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、薬学に係わる専門知識や技能を身に付け、医療機関や地域医療において多職種と連携して実践的な能力を発揮できる資質の高い人材を養成することを教育目的とする。

①豊かな人間性と専門性を併せ持った人材の養成

医療の担い手として豊かな人間性と高い責任感・倫理観を備え、生命への尊厳を基に患者・利用者に真摯な態度で薬学の専門的な技能を提供できる人材の養成。

②専門知識・技能に裏付けされた臨床実践能力の高い人材の養成

薬学及び関連する医学に関する専門知識と技能に基づいて臨床現場で患者の心身の状態をアセスメントして医師や看護師等の多職種に適切な提案ができ、チーム医療の一員として連携協働できる協調性やコミュニケーション能力を身に付けた臨床実践能力の高い人材の養成。

③地域医療で活躍できる人材の養成

人々の生命・健康と社会福祉の向上に深い関心を持ち、地域住民の医療の実態と動向を分析し、人々の健康増進や予防活動を通して地域医療の現場で主体的に活躍できる人材の養成。

④研究マインドを兼ね備えた人材の養成

ヒトの身体の健康な状態から、未病から疾患に至る疾患発症機構について科学的理解・探求する能力を身に付けることは、将来研究者を志向する者だけでなく臨床現場で働く薬剤師にとっても重要である。基礎と臨床の相互からのトランスレーショナルリサーチを推進し、国際的に活動できる研究マインドを兼ね備えた人材の養成。

⑤医療のグローバル化に対応できる人材の養成

新興感染症の蔓延等、医療のグローバル化に対応できる医療分野における国際感覚と外国語運用能力を備えた人材の養成。

(2) 教育研究上の目的

薬学部は、学是「仁」の精神に基づき、薬学に係わる専門知識や技能を身に付け、医療機関や地域医療において多職種と連携して実践的な能力を発揮できる資質の高い人材を養成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。

①豊かな人間性と高い責任感・倫理観を備え、不断前進の自己研鑽を行える能力を

修得する。

- ②幅広い教養とグローバルな視点を持ち、社会に適切かつ柔軟に対応できる能力を修得する。
- ③薬学の社会的位置づけを理解し、地域医療に貢献する能力を修得する。
- ④薬剤師、薬学研究者等の薬学専門職者としての専門知識・技能及び態度を修得する。
- ⑤医療、健康・福祉に係る問題を、多職種と協働して解決を図ることができる能力を修得する。

2) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

(1) 人材需要の動向

①臨床実践能力の高い病院薬剤師養成の必要性

厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」（令和3年6月30日）によれば需給推計として、概ね今後10年間は需要と供給は同程度で推移するが、将来的には供給が需要を上回り薬剤師が過剰になると予想されている。しかし現時点では地域偏在等により特に病院を中心として薬剤師が充足しておらず、不足感が生じており、「病院薬剤師の確保は喫緊の課題である」とされている【資料14】。厚生労働省の薬剤師確保のための調査・検討事業報告書では、都道府県病院薬剤師会の約90%が「薬剤師の不足が生じている」と回答しており、全国的に病院勤務薬剤師の不足及び偏在が指摘されている【資料15】。

病院薬剤師は、臨床現場に欠かせない専門知識・技能・態度を統合して患者の心身の状態をアセスメントし、個々の患者の病態と薬歴を把握し、患者の状態等に合わせた最適な薬物療法を提供するとともに、チーム医療の一員として医師・看護師等の多職種と連携しながら病棟の薬剤業務の充実や外来支援業務、手術室、ICU、救命救急等の業務への取組等、高い臨床実践能力が求められている。「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について(平成22年4月30日)」において薬剤師を積極的に活用することが可能な業務が示されたこと【資料16】、さらに医師の働き方改革において薬剤師へのタスク・シフト/シェアが可能な業務が具体例に示されたことにあるように薬剤師はチーム医療において薬剤の専門家として主体的に薬物療法や薬学的管理等に参加することが非常に有益とされている【資料17】。薬剤師には、薬学に係わる専門知識と技能に加えて臨床医学の知識を併せ持つことが求められる。また医療機関における医療安全の取組として、医療安全管理部門に薬剤師を配置し、院内における医薬品の安全管理の組織体制を構築するとともに、他職種への研修等を通して必要となる情報提供や安

全確保を目的とする取組も求められている。病院薬剤師は積極的にチーム医療の一員として多職種と連携し、その専門知識と技能を発揮して安全で質の高い薬物療法を提供することが期待されているなかで、病院薬剤師の確保は容易ではないのが現状であり、それは本学医学部附属病院においても同様の状況にあるといえる。

本学では、医学部、看護系学部、その他の医療系学部の学生は、多職種が協働して展開する医療体制を学修できる教育研究臨床環境が整備されている。本学部では、本学で永年にわたる医師、看護師等の医療職者教育を通じて培ってきた教育研究臨床環境を有効に活用して、基礎と臨床の双方の領域が連携し、基礎で学ぶ知識・理論と臨床現場での実践的な業務との係わりを踏まえた教育を行い、病院薬剤師の役割や魅力等についての認識を深めて、臨床実践能力の高い病院薬剤師の養成を目指す。

②地域医療に貢献できる薬剤師養成の必要性

高齢化の進展や疾病構造の変化を背景として、患者の状態に応じた医療を地域において効果的かつ効率的に提供するため、在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築は重要な課題となっている。地域包括ケアシステムにおいては、従来の薬局や薬剤師の在り方が見直され、薬剤師がその役割を果たしていくためには、薬剤の調製等の対物業務を医療安全確保のもとで適切かつ効率的に実施することを前提として、医療・保健・介護福祉・行政等の専門職との連携強化を図り、地域医療の実情や特性を熟知して患者・住民に対する薬物療法の提供や薬物管理、健康・増進・予防活動の支援に取り組み、より積極的に患者・住民に関与していくことが求められる。地域包括ケアシステムの中でこのような機能を発揮する「かかりつけ薬局・薬剤師」の配置が急務になっている。そのためには薬剤師は薬学の知識・技能の質と専門性の向上に加え、患者の治療状況を把握したうえで服薬情報の一元的・継続的把握や在宅業務の実施とともに、医療機関との連携に当たっては医療機関等の業務や医師、看護師等他の医療専門職が担う役割を理解し、多職種連携に必要な知識・技能を修得することが必要である。地域包括ケアシステムの担い手としてチーム医療の一員に参画するに当たっては、多職種と協働・連携できる協調性やコミュニケーション能力も欠くことができない。

患者本位の質の高い医療、かかりつけ薬局・薬剤師の普及と定着、在宅医療への薬局の参加を促進するに当たって、薬剤師の果たす役割は大きく、資質の高い薬剤師の養成及び確保が望まれるなかで、本学部を設置する千葉県では薬剤師の不足が指摘されている。「千葉県保健医療計画」【資料 18】には、平成 28 年度末現在において県内の医療機関及び薬局に従事する薬剤師数は 10,987 人で、人口 10 万人当たりでは 176.2 人と全国平均 181.3 人を下回っている。地域包括ケ

アシシステムにおける薬剤師の役割に対応するため、薬剤師の安定的な確保と資質の向上が一層必要になること、就労する薬剤師の地域的な偏在がみられ、新たな薬剤師の確保が困難な地域があるとしている。隣接の埼玉県でも「高度な知識・技術と臨床経験を有する薬剤師の確保が求められている」（第7次埼玉県地域保健医療計画）【資料19】と指摘されており、第7次茨城県保健医療計画【資料20】においても「課題として薬局の在宅医療への参画が求められていることから、より一層薬局・医療施設における薬剤師の確保に努める必要がある」としている。こうした状況を背景として、本学既設の医学部・看護系学部及び医学部附属病院と連携し、薬学に係わる専門知識と技能を身につけ、地域医療の向上と地域住民の健康福祉の増進に貢献できる資質の高い薬剤師の養成を目指す。

③薬学に係る教育研究拠点としての必要性

医療を取り巻く環境は変化を続け、今後の医薬品に係わる科学技術の進展はさらに加速することが予想される。本学部では、高い倫理観と豊かな人間性を持ち、薬学に係る専門知識と技能を身に付け、医療機関や地域医療において多職種と連携して実践的な能力を発揮できる資質の高い薬剤師を養成するとともに、本学部開設後早期に大学院開設を視野に置き、先進的な薬学領域に重点を置いた教育・研究を施し、高度の研究能力と豊かな学識を有した教育者及び研究者の養成に取り組む。一般社団法人薬学教育協議会による調査結果によると、6年制卒業後の4年制博士課程への進学者は卒業生の1.4%（令和3年度138人）に留まり、6年制課程を支える教育・研究人材の不足が懸念されるといわれている【資料21】。本学部では研究マインドをもった薬剤師の養成を目指すとともに、医学部附属病院に勤務する薬剤師に対し薬学大学院への進学を勧め、他の医療機関や薬局とも連携して社会人入学を支援する仕組みを検討する。高度・複雑化している医療環境下において、①患者や医療チームに対して薬剤師としてのCureとCareが実践できる真のClinical Specialistの養成、②Clinical Specialistとしての経験を積み、多職種と協働して施設内における医薬品使用評価や治療ガイドライン、プロトコルの作成・評価が実践できる真のClinical Generalist(Clinical Professor)の養成、③薬局・病院・企業において医療と経営を有機的に捉え、次世代のグローバルリーダーとしてイノベーションを起こすことができる真のManagerの養成を行い、基礎及び臨床薬学の教育・研究拠点として展開することを目指す。

(2) 社会的人材需要を把握するためのアンケート調査

本学部に対する社会的人材需要を客観的かつ定量的に把握するため、次の通りアンケート調査を行った。

本学部卒業生に対する企業・施設の採用意向の確認するために、外部機関（株式会社高等教育総合研究所）にアンケート調査を委託した。

令和4年1月に本学部卒業生の就職先として想定される企業・施設に本学部についてのリーフレット及びアンケート用紙を送付し、アンケート用紙に記入して頂く方法により実施した。

ア. アンケート調査の概要

- 調査期間 : 令和4年9月～11月
- 調査対象 : 卒業生の採用が期待される企業・機関 909件
- 調査方法 : 企業・機関宛に学部の概要、養成する人材像をまとめたリーフレット及び調査票を送付し、同封の返信用封筒にて株式会社高等教育総合研究所に返信して頂くこととした。
- 調査票 : 調査票及びリーフレットには、設置予定学部学科の名称、設置予定時期、設置予定場所（アクセス含む）、入学定員、設置の理念、養成する人材像を明示した。

調査委託会社 : 株式会社高等教育総合研究所

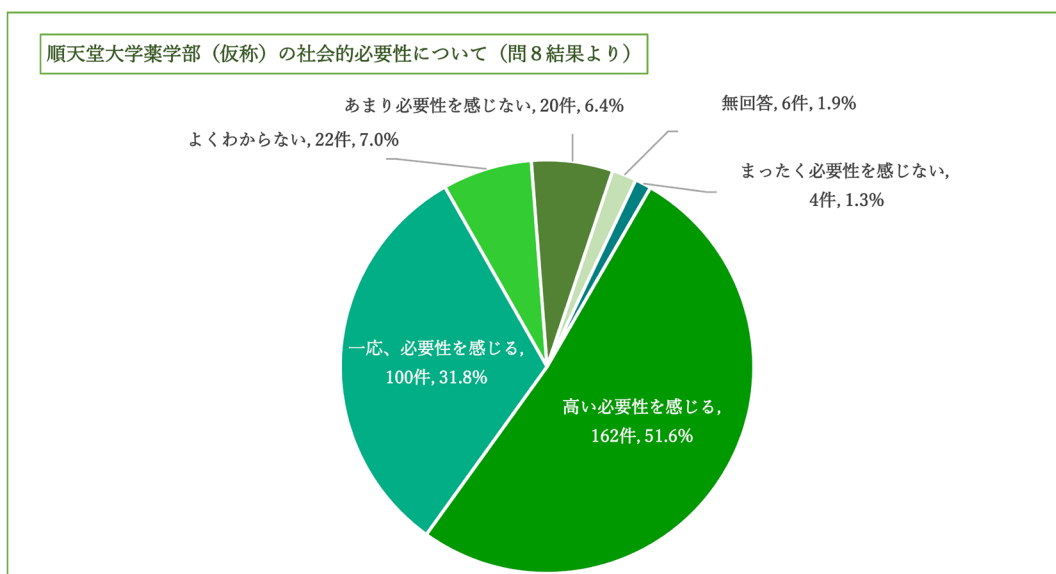
イ. アンケート調査の結果【資料6】

卒業生の就職が見込まれる企業・機関の人事責任者にアンケート協力依頼書を送り、314企業・機関から有効回答（回答率34.5%）を得た。

アンケート対象は主に、一般社団法人日本保険薬局協会に加盟する薬局、一般社団法人日本病院会に加盟し東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・山梨・長野に所在する病床数200床以上の病院、食品・薬品・医療機器・化粧品メーカー等の企業、研究所・保健所等へ調査した。回答した企業・機関について、種類を多い順に並べると、病院が44.9%、保険薬局40.8%、ドラッグストア5.4%の順であり、想定する就職先と一致している。所在地は多い順に、東京都27.4%、埼玉県11.5%、神奈川県9.9%、千葉県8.6%、茨城県16%となっている。正規職員の薬剤師数は「30名以上」が最も多く54.8%、次いで「10名以上29名」が30.6%であった。前年度に採用された薬剤師の人数は、「1～2名」が34.7%、「3～4名」が15.0%、「5～9名」が13.4%、「10～29名」が9.2%、「30名以上」が8.0%、「採用していない」が19.7%であった。薬剤師の現在の採用状況については、「薬剤師の確保（採用）はできているが十分ではない」が56.4%、「薬剤師の確保（採用）は難しくなっている」が22.6%であり、「十分な数の薬剤師を確保（採用）できている」の17.8%に対して、多くの企業・機関が十分な薬剤師採用に至っていないと回答した。

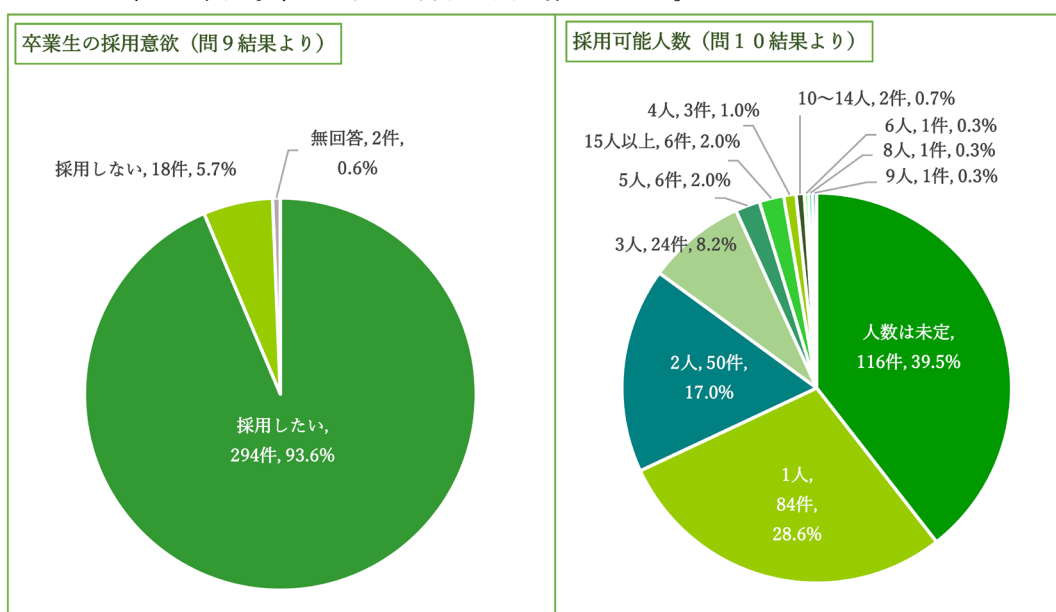
本学部の社会的必要性については、回答した企業・機関の約半数の162企業・機関（51.6%）が「高い必要性を感じる」と回答していることから、本学部開設の

社会的必要性は高く評価されていることが窺える。



本学部卒業生の採用意向については、本学部卒業生を1年あたり何人程度採用するかという将来にわたっての採用者数を質問し、294企業・機関、93.6%が「採用したい」と回答し、多くの企業・機関が採用意向を示している。

更に回答した企業・機関の種類と採用意欲の件数をクロス集計した結果、病院が132件、保険薬局が124件、ドラッグストア17件、製薬・食品メーカー12件の順であり、本学部が想定する卒業後の進路と対応する種類の企業・機関から採用意欲を得ている。また採用意欲と採用可能人数をクロス集計した結果、想定する具体的な採用人数は合計547人となり、入学定員180人に対して3倍以上の採用意向を示しており、入学定員を上回る採用予定数がある。



本アンケート調査の結果、多くの企業・機関が採用意向を示し、入学定員を上回る採用予定数があることに加え、本学部の社会的必要性について56.1%の企業・機関が「高い必要性を感じる」と回答したことは、「（1）人材需要の動向」で

示したとおり、薬剤師業務の高度化・多様化が進展する中で、中長期的に本学部が掲げる臨床実践能力の高い病院薬剤師及び地域医療に貢献できる薬剤師養成が求められていることを示しており、本学部卒業生が就職する令和12年度採用時点、またそれ以降中長期にわたり、各企業・機関において本学部を卒業した薬剤師の高い人材需要が見込まれる。

なお本調査は314企業等に限定して実施したものであり、本調査対象外の就職先も多く想定されることから、本学部卒業生に対しては非常に高い人材需要があることが想定される。

(3) 都道府県の医療計画等における薬剤師の需給見通しや地域偏在（地域の人材需要）に資する取組などを踏まえたものであるか。

千葉県保健医療計画（平成30年度～令和5年度）に示されている千葉県の薬剤師数は、平成28年末現在、13,556人であり、人口10万対では217.4人と、全国平均237.4人を下回っている。医療機関及び薬局に従事する薬剤師は、10,987人で全体の80%を占めるものの、人口10万対では176.2人と、全国平均181.3人を下回っている。また、地域偏在も顕著であり、勤務薬剤師の地域的な偏在がみられ、新たな勤務薬剤師の確保が困難な地域があるとされ、千葉県保健医療計画には、医薬分業及び在宅医療の進展に対応するため、薬剤師の確保が重要であることから、県薬剤師会と協働して、就業を希望する薬剤師に対し、就業に役立つ情報の提供や必要に応じて研修を実施し、就業を促進すると明記されている【資料18】。

このような薬剤師の地域偏在の解消に貢献すべく、本学部設置を計画するに際して、千葉県薬剤師会と協議し、地域医療で活躍できる薬剤師の養成を目指した連携教育講座の開設や地域偏在を解消するための人材輩出等について連携を行うことを提案し、合意を得ている【資料22】。この連携により勤務薬剤師の地域的な偏在の解消につながる取り組みを推進する。

(4) 設置について都道府県に意見聴取をした際の概要

千葉県において本学部の設置構想に関する意見聴取を行った際に、将来的かつ全国的には薬剤師の需給バランスにおいて供給過多になるというものの、現時点では、保険医療計画にあるように勤務薬剤師の地域的な偏在がみられ、新たな勤務薬剤師の確保が困難な地域があり、その解消が課題の一つであるとの認識が示された。さらに、本学部を開設するのであれば、その課題解決に貢献することが大切であるとの考えが示された。

また本学部の開設構想に対しては、一般社団法人千葉県薬剤師会から推薦書

【資料 23】及び一般社団法人埼玉県薬剤師会から要望書【資料 24】をそれぞれ頂いており、日本全国の保険薬局を営む法人により組織されている一般社団法人日本保険薬局協会からは学部開設の要望書【資料 25】を頂いている。

- (5) 厚生労働省において示された薬剤師の需給見通し等を踏まえ、当該地域における設置についての考え方。また、当該地域の地域偏在（地域の人材需要）に資する取組となっているか。

厚生労働省において示された薬剤師の需給見通しでは、将来的に薬剤師の供給過多になるということが予測されている。しかし、先に述べたように本学部を設置する千葉県においては勤務薬剤師の地域的な偏在がみられ、新たな勤務薬剤師の確保が困難な地域があり、その解消が課題の一つである。さらに、全国的にみても大学薬学部、薬科大学が設置されていない県においても勤務薬剤師の地域的な偏在が顕著である。本学部では、上述のように千葉県薬剤師会との連携による勤務薬剤師の地域的な偏在の解消につなげる取り組みを推進することを合意しており、そのプログラムの構築及び推進に積極的に務める。

さらに、厚生労働省が薬剤師の確保に向けて活用を推進している「地域医療介護総合確保基金」を利用した奨学制度による入学者地域枠の設定を主として大学薬学部、薬科大学が設置されていない県の担当部局、県薬剤師会及び県病院薬剤師会に提案することを計画している。その制度導入によって、薬剤師の地域偏在を解消することに貢献できるのではないかと考えている。